

ありがとうのひ

井上 藤悟

おとうとのきつくんがうまれたのは、ぼくが5さいのときだった。ぼくにはいもうとがいる。だけど、おとうともほしいとおもっていたからうれしかった。くるまやでんしゃのおもちやでいっしょにあそんでみたかった。ふたりよりも3にんのほうがたのしそう。ねるときもさびしくない。だからきつくんがうまれるのをたのしみにまつていたんだ。

あさおきたら、ママがおなかをいたそうにしていた。おなかがいいたいのは、もうすぐうまれるし。ぼくたちはいそいでびょういんにいった。ばばがびょういんにくるまでは、ぼくがそばについていた。ママはすぐくつらそうだった。ぼくはみずをくんできたり、うちわであおいであげたりした。こんなにくるしそうなママをみるのははじめてだった。ぼくはママがしんばいでこわくなった。あかちゃんのあたまがみえてきたころ、やっとばばがとうちやくした。ばばがきたので、ほっとした。そしてなみだがた。たくさんのきもちが

まじったなみだだった。だからりゆうはせつめいしづらい。ついにきつくんがうまれた。ばばがへそのおをきった。へそのおはママとあかちゃんをつないでいたもの。ぼくは、じぶんもこゆうふうにくまれてきたんだなあとおもった。そのひはわすれられないひになった。

きつくんはいま2さいになった。くるまやでんしゃであそんでる。3にんでふざけてママにおこられる。でもすこしたのしい。きつくん、うまれてきてくれてありがとう。ママ、ぼくにきょうだいをありがとう。ママには、きつくんがうまれるときちかくにいてくれてありがとう。ママには、きつくんのたんじょうびはありがとうがいっぱいのひ。だからことしもおいわいした。